



地域の夢

長岡地域

「新市地域らしさ価値」を高めるための長岡地域の方針と活動

長岡地域は、こんなところ

■長岡市の成り立ち

長岡市はまちの中心部を信濃川が流れ、東西には東山連峰、西山丘陵地が連なる自然環境に恵まれた県内第二の都市。上越新幹線で東京から80分、関越自動車道で東京都内から3時間の距離、日本海側における北陸、東北の分岐点でもあり、交通の要所ともなっています。長岡のまちの原型は江戸時代初めの長岡城の築城と共に形成され、明治初めまで約250年間にわたって7万4千石の城下町として栄えてきました。市制が施行されたのは明治39年。以来、中越地区の商工業の中心として発展してきました。

長岡は北越戊辰戦争と昭和20年の長岡空襲によって壊滅的な被害を受けましたが、市民は不屈の努力で立ち上がりまちの復興を成し遂げました。復興後は周辺市町村との合併が進み、現在の市域となったのは昭和35年です。

平成5年に地方拠点都



市地域の指定を受けてからは周辺13市町村の中心都市として市域を超えた広域行政を展開しています。

■ものづくり生産基地

長岡市は明治中期の東山油田の開発を契機とする石油掘削機械の製造・修理の需要に端を発し、機械加工、鋳造業、メッキ、表面処理、鍛造業などの基盤的技術をもった企業や大手メーカーが集積しています。

近年では従来の基盤的技術産業に加え、戦後の技術革新とテクノポリス指定を背景に電気・電子機械や液晶・半導体など高度な技術を有する多様な分野の企業がバランスよく集積。研究開発機関や技術・デザインに関する

長岡地域の方針と活動 (右頁参照)

長岡地域において「新市地域らしさ価値」を高めていくための方向性と、活用したい地域資源（地域の強み）から検討した、将来実現すべき地域の姿（整備・活動方針）と実現のための活動・展開を提示します。



特色ある大学、産業支援機関などが多数立地しており、世界的な技術を有する企業も多く、産学官の連携体制も充実しています。首都圏などへのアクセスも良いことから、独創企業を生み出す土壤が整い、ものづくりのまちとしてさらなる発展が望れます。



整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

長岡地域において

独創企業が生まれ育つ都市

～誠実さが生み出す「技」立国・新ながおか～

を高める方向性

- ・人・モノ・情報が集積するように都市の空間、機能、仕組みを進化させていく
- ・発想をものづくりに転換する技術、起業・創業を生み出すための市場形成など、独創企業の生育機能を強化する

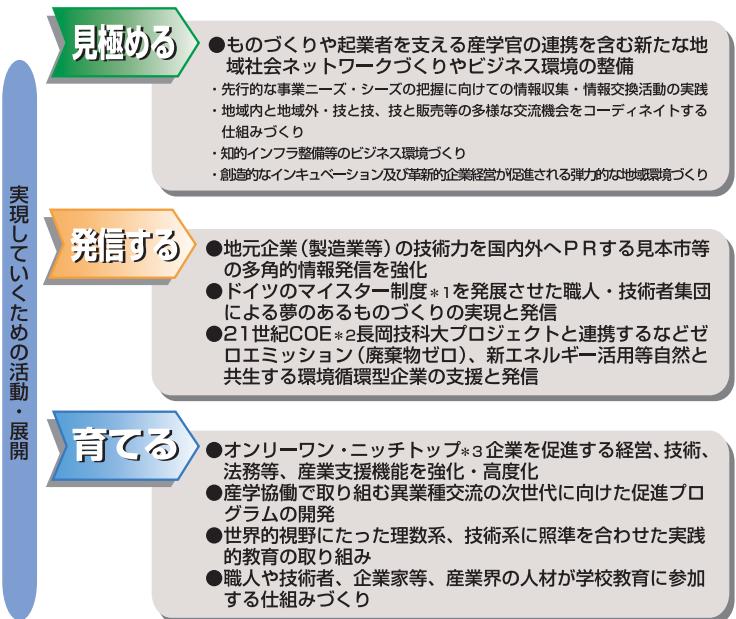
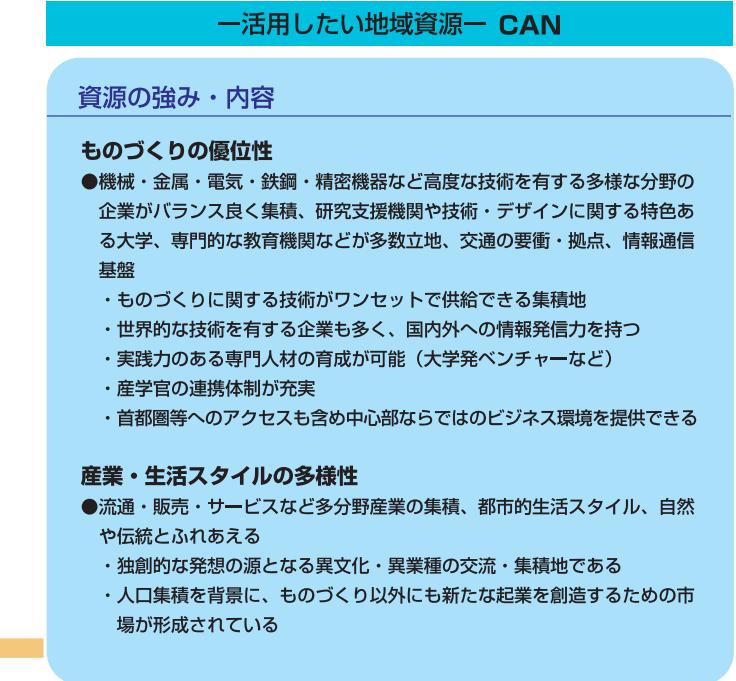


—実現すべき長岡の姿— WILL

■長岡地域整備・活動方針

世界のモデルとなる 独創企業生育拠点への挑戦

- ・ものづくりの確かな技術と人、モノ、情報の集積を強化し、世界に広がる夢を現実に変える都市（空間、機能、仕組み）の創造



*1 マイスター制度：職人の技能・理論を実践と教育で培う制度

*2 21世紀COE：世界最高水準の大学づくりに向けた、研究教育拠点の形成を支援する事業（文部科学省）

*3 オンリーワン企業：他に真似のできない独自の優れた技術を持つ企業

ニッチトップ企業：製造業を中心とした特定の製品分野において、全国で高いシェアを獲得している企業



整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

長岡地域において

元気に満ちた米産地

～まごころ米の生まれる里・新ながおか～

を高める方向性

- ・地域の食の最前線として安全性・品質・量に関わる生産体制に裏付けられた食への誇りを持つ農産加工品の開発
- ・地域農産物を活用した食の安定供給による市場開拓と消費の拡大
- ・全国への情報発信など、食に関するあらゆる分野の展開を可能とする地域として、新市の食全般を支える



—実現すべき長岡の姿— WILL

■長岡地域整備・活動方針

日本の食文化の誇りを育て、伝統を活かした「新ながおかブランド」の食の拠点として全国へ展開

- ・たゆまぬ研究と歴史に支えられた、生産から消費、市場拡大まで、日本を元気にする、あらゆる食の先進モデル地域としての展開を強化

実現していくための活動・展開

一活用したい地域資源一 CAN

資源の強み・内容

生産と加工技術の発信

- 農業総合研究所・農業技術学院、内水面水産試験場
 - ・全国レベルの研究所と指導者養成機関が立地
- 郷土料理、和菓子、酒・醤油等
 - ・伝統的な食の技術が継承
- ながおか米
 - ・コシヒカリ発祥の地としての誇り、信頼された農産物の安定した供給量

市場開拓力、販売力

- 多様な飲食施設と活気ある市場の集積
 - ・飲食街やロードサイド型レストラン、さらにコンベンションの充実により、食の施設とサービスが多様
- 豊富な消費人口と多様な食の生活スタイル
 - ・豊富な消費者により、新たな食のビジネスを生み出す多様なニーズが潜在
- 長岡野菜
 - ・伝統野菜の全国ブランド化への取り組み

県内外の来訪者の拠点

- 地域の玄関口として地域外からの来訪者の滞在の中心地
 - ・来訪者が地域の食を楽しむ機会を数多く提供

見極める

- 研究に裏付けされた技術力の普及と生産履歴の明確化による消費者への信頼性の向上
- 長岡発信の超高压処理技術等の先端工業技術の活用などによる新しい安全安心の食品加工・開発の強化
- 長岡米や長岡野菜を使った長岡でしか味わえない新しい名物郷土料理・特産品の開発と販売力の強化

発信する

- 健康食品産業や外食チェーン等とタイアップしたブランド品の普及、促進
- 美しい農村地域と一体となった酒や農産物のブランド開発と発信

育てる

- 中山間地域をはじめ、地域の環境、活力を守り支えるための「農業地域再生」を目指す取り組みの実現
- 研究機関・大学と連携したバイオテクノロジー等、新技術の活用による高付加価値の農産加工業の育成
- 環境配慮・地域循環型の生産・消費・生活の推進
- 農業体験等により農業の役割を理解し、環境の保全を促す心を育成
- 将来の農業を担う人材育成と人材確保

3 整備・活動方針と活動展開

一新市全体のありたい姿ー WANT

長岡地域において

世代がつながる安住都市

～未来人を育む資源博物館・新ながおか～

を高める方向性

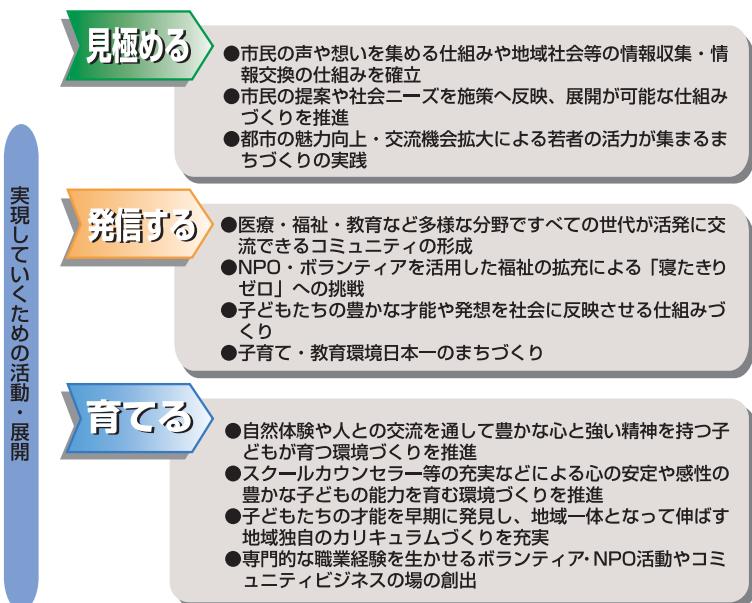
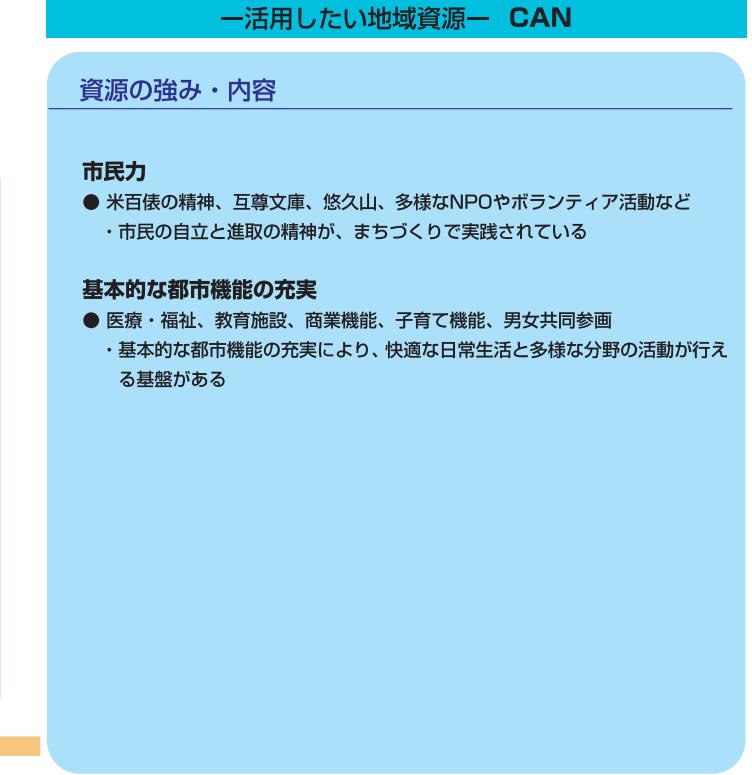
- ・市民力によるまちづくりを促進・確立することで、市民自らまちをつくりあげる力があることを地域内外へ示す
- ・市民自らが安住都市づくりを推進していく力を育成する
- ・都市の斬新な空間・機能の構築により、時代の変化に対応した新たな発想・活力を創造する

一実現すべき長岡の姿ー WILL

■長岡地域整備・活動方針

「市民の想いが、まちをつくる」 市民とまちが一体化する 安住都市への歩み

- ・歴史と伝統に育まれた「市民力」を活かした、あらゆる世代の想いや願いがかなう、新しい都市・生活環境の創造



4

整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

長岡地域において

世界をつなぐ和らぎ交流都市

～「人」「ものがたり」「競和国」・新ながおか～

を高める方向性

- 国内外と地域をつなぐ交流の駅であり、各地域の交流目的を支援する機能だけでなく、もてなしによる心の交流を実践し、地域イメージの向上に寄与する
- 交流の結果として、国際協力・国際貢献へと発展し、世界が共感する活動を発信する地となる



—実現すべき長岡の姿— WILL

■長岡地域整備・活動方針

地域と世界を和らぎで結び、人々の心に残る世界都市への挑戦

- 世界をもてなす和らぎのこころを育み、新たな交流の価値を発信する拠点となる

一活用したい地域資源一 CAN

資源の強み・内容

交通の要衝・拠点

- 上越新幹線、関越・北陸自動車道、国道8号長岡バイパス、国道17号長岡東バイパス
 - 高速交通体系の拠点として、県内外への窓口となっている

多様な国際交流

- 姉妹都市(米：フォートワース市)、友好都市(独：パンベルク市、トリアー市)
 - 青少年の相互交流等を中心として幅広く多様な国際交流の歴史と実績がある
- 世界から長岡に学ぶ留学生は約280名で、講師として小中学校への派遣も実施

交流資源と受け入れ機能

- 多様な観光資源、四季折々のまつり、コンベンション、宿泊施設
 - 観光、ビジネスの両面で、年間を通じた来訪があり、それを受け入れる機能も充実している

見極める

- 新ながおかの交流拠点としての先進的都市機能の充実や「和らぎ交流」を支えるもてなしの基盤・体制の充実
- 国際規模の見本市の開催等が可能なコンベンション機能が充実したまちづくり
- 既存の観光分野にとらわれない、ビジネス面等での新たな交流メニューの開発、もてなし交流機会づくり（長岡人の営み（産業・生活）を交流資源とする取り組み、田植え、稻刈り、食・・・）
- 地域の資源や歴史を再発見する「地元学」による新たな交流価値の発見

発信する

- 国際交流・国際貢献を通じて世界平和に役立つ交流の推進とメッセージの発信
- 米百俵、花火、・・・様々な歴史、文化資源にみる“長岡の心”の魅力を世界に発信

育てる

- 長岡の資源を活かした新たな観光ブランドの創出
- 再び訪れたくなるまちとしての魅力を高めるため地域一体となった「もてなし」向上のためのプログラムの開発と実施
- 若者をひきつける魅力的な都市文化の再構築

もつと詳しく地域の力

長岡地域

長岡市では、幕末に長岡藩軍事総督として氣概を持って正義を貫こうとした河井継之助、明治初期に人材育成を復興の精神として掲げ、米百俵を国漢学校の設立資金の一部に充てた小林虎三郎など、反骨精神・自立心で時代を開いてきた人物が多数生まれてきました。長岡の資源は市民力。戊辰戦争や長岡空襲で焼け野原になったまちを復興したのはそんな気概と精神に富む長岡の人々です。今、その市民力は多様なNPOやボランティア活動に活かされています。



■異業種参加で産業を活性化

長岡市内の異業種20社が参加している「長岡産業デザイン研究会」では多様化する生活者の価値観に対応するため、企業経営へのデザインの活かし方や新たなデザイン商品の開発、研究などに取り組んでいます。



■長岡野菜のブランド化

長岡巾着ナス、体菜、看豆(枝豆)、おもいのほか(食用菊)、土垂れ(里芋)などの伝統野菜。その長岡の伝統野菜を楽しむ風土を作ろうと、流通、技術、種苗、生産等の各専門家や消費者が参加して長岡野菜ブランド協会を立ちあげました。長岡野菜に認定された品目に共通シールを貼るほか、料理教室や交流会を開催、伝統野菜の食べ方も伝授しています。



■一店逸品運動

中心商店街では、魅力ある店づくりをめざし一店逸品運動を展開中。参加店を紹介したカタログの作成や「商店街大好き！」な女性消費者の長岡逸品ふあん俱楽部とお買い物ガイドツアーを企画して、まちなかの楽しさを広くPRしています。



■リサイクルを推進し循環型社会を構築

NPO法人「地域循環ネットワーク」では、学校や保育園などから出される調理残さをボランティアで収集。市内の牧場と契約し、家畜の飼料として再利用する活動を行っています。



■花いっぱい運動

「咲かそう花を育てよう緑を」をキャッチフレーズに、花と緑で住み良いまちづくりと心豊かな人材を育てる長岡市の花いっぱい運動の輪は、年々広がっています。現在、100団体もの地域ボランティアが市内の公園や学校・街路の花壇等に約7万本の花を植え管理しています。また、長岡市花いっぱいフェアの開催や長岡駅前での市民ブランダーブルックなども行っています。